

◇令和7年／2025年9月号 第112号◇

會



フジサンケイグループ

報

産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



高円宮妃久子さまから高円宮賞を授与される高橋照弘理事長(8月19日、明治記念館)



産経新聞社
事業本部長
三笠 博志



産経国際書会
理事長
高橋 照弘

“国際”書会の面目躍如

今年も4分の3が過ぎつつありますが、産経国際書会のさらなる発展にとって非常に有意義な年になっていると感じています。

象徴的なのは6月に大阪・関西万博の会場で開催した「産経国際書展 大阪・関西万博展」です。6日間の期間中、1万人を超える人たちが訪れるという大成功でした。来場者の中には、ふだんは書道と縁遠い人や外国人も多く、子供たちが書道体験に目を輝かせているのも、とても印象的でした。書会の大きな課題である裾野の拡大に向けて、大きなヒントや弾みになったのではないのでしょうか。

続いて8月に開催した第42回産経国際書展も、よい流れにのって大盛況でした。各特別賞をはじめとする入賞・入選作品はもちろん、万博展の展示作品コーナーや特別企画「中国明・清時代の書画名品展」の作品が来場者を引き付けて、「国際」をうたう書展の面目躍如でした。

日本の「書道」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた動きも来年秋に見込まれる審議に向けて大詰めを迎えています。会員の皆様のご尽力により、こうした書道の国際化は、産経国際書会にとって大きな好機、転機になりつつあります。産経新聞社も皆様と手を携えながら、少子高齢化や手書き離れなど書会をめぐる諸課題を突破していくため全力で取り組んでまいります。引き続きご支援をよろしくお願いたします。

書的精神を刺激し、書活動に活力を

第42回産経国際書展は盛況裏に終了することが出来たことは、会員の皆様、書会をご支援していただいている関係各位のご尽力によるものと厚く御礼を申し上げます。

産経国際書展は日本書道界の全てのジャンルにわたる出品があります。特に外国からの出品者が増えています。国際書会に相応しいものといえます。書会の間口の広さ、奥行きを感じさせるものです。回を重ねるごとに存在感は強いものとなっています。

本年特別展示として二つの企画を催行しました。ひとつは6月に大阪・関西万博会場内のギャラリーEASTにて「墨いろの軌跡」と題した「大阪・関西万博展」を会場内に再現、出品全作を本展会場に陳列しました。万博会場に足をお運びいただいた方、ご覧いただけなかった方から是非もう一度という強い要望によるものです。ふたつめは「明・清の書画名品展」です。明時代の復古主義による祝允明、文徵明等による伝統書風の勃興後には張瑞図、王鐸、傅山等が独特の世界を展開、連綿草長条幅、漢時代の帖学派、碑学派の作品、学問の発達、新資料の発見、考証学の発展は清新な書風を出現させています。これを含む作家、作品は日本の近代、現代に大きな影響を与えています。お楽しみいただけたことと思います。

古くも新しい作品は私たちの書的精神を刺激し書活動への活力をもたらしたことは間違いないと信じています。今後も会員の皆様の書に資するべく事業を計画していきます。

どうぞよろしくお願いたします。

第42回産経国際書展は8月14日から8月21日まで、東京都台東区の東京都美術館で開催されました。総出品数は5509点にのぼり、会場は連日、大勢の来場者でにぎわいました。高円宮賞は高橋照弘理事長、内閣総理大臣賞は小川艸岑常務理事がそれぞれ受賞しました。

開幕初日に、高円宮妃久子さまは展示会場を鑑賞され、高橋理事長をはじめ、主な出品者たちに熱心に作品の意図などをお尋ねになり、充実した時間を過ごされました。

特別企画は今年も充実のラインアップとなりました。「中国 明・清時代の書画名品展」が披露されたほか、今年で17回目を迎えた「特別色紙展」も開催。高円宮妃久子さまから「萬」「博」の御題を賜り、80歳以上の会員が揮毫した色紙63点が会場を彩りました。また、6月に大阪・関西万博の会場で開催した「万博展」の出品作も展示され、好評を博しました。

【来年度】第43回展

会期 令和8年8月14日(金)から8月21日(金)まで ※8月17日(月)休館

会場 東京都美術館 ロビー階及び1階第1～第4展示室、2階の第1、第2展示室(計10室)

贈賞式・祝賀会 展覧会会期中に東京会館で実施予定。

※「2026産経ジュニア書道コンクール」も同会期に併催(東京都美術館2階第3、第4展示室[計2室]で実施されます)。

芸能人・文化人も特別出品し、中山秀征さん、松村雄基さん、藤田三保子さん、岡部まりさん、矢野きよ実さん、円覚寺横田南嶺管長禅師、臨済宗妙心寺派・大本山妙心寺山川崇玄管長の書が並びました。

関連イベントも充実。書道の楽しさや奥深さをその場で体感できる得難いものとなりました。

まずは「揮毫会」です。高橋理事長と小川常務理事が紙と対峙する姿に、会場は緊張感に包まれました。特別賞の受賞者たちが自作に込めた思いを語る「ギャラリートーク」も書道ファンを喜ばせました。

また、東京都美術館講堂でフォーラム「今さら聞けない書の疑問」を開催し、人気を博しました。Facebookでlive中継も実施。動画全編は再編集の上、産経新聞公式チャンネル「Sankei Up」でアーカイブ配信の予定です。



開会式: 左から坂本香心理事長代行、原田圭泉名誉顧問、山下海堂最高顧問、飯塚浩彦産経新聞社相談役、齋藤香坡最高顧問、竹澤玉鈴名誉顧問、高橋照弘理事長、渡邊麗理事長代行



高円宮妃久子さまに自作を説明する高円宮賞受賞者・高橋照弘さん 8月14日午後1時にオープンし、賑わう会場



制作秘話が満載のギャラリートーク(8月17日) 内閣総理大臣賞受賞者・小川艸岑さん

第42回産経国際書展を終えて

実行委員長 金丸鬼山



第42回産経国際書展は8月14日から21日まで、東京都美術館にて盛大に開催され、国内外から寄せられた多彩な書作品が一堂に会しました。漢字・仮名・現代書・臨書・刻字など各分野の力作が並び、来場者は書の奥深さと現代的な広がりを感じ取れたと思います。

今展では特別企画として、都美講堂に於いてフォーラム「今さら聞けない書の疑問」を実施しました。第一線で活躍する書家と研究者によるパネルディスカッションは技法や歴史、鑑賞のポイントと言ったテーマを分かりやすく掘り下げ、専門家のみならず一般の来場者にも好評を博しました。質疑応答では活発な意見交換が行われ、書をより身近に感じる切っ掛けになったとの声も多く寄せられました。さらに、会期に先立ち開催された大阪・関西万博での特別展や体験型イベント「It's 書Time」など、参加型の企画も功を奏し、世代や国境を越えて書と触れ合う場が広がりました。特に若手U23部門の台頭は、書の未来への期待を一層高めています。

実行委員会として、こうした新たな試みが書の魅力を再発見する契機となったことを喜ばしく思うと同時に、今後も「言葉と文化を結ぶ懸け橋」として、より多くの方に感動を届ける書展づくりを続けてまいります。ご支援くださった皆様、そしてご来場くださったすべての方に、心より感謝申し上げます。



公正審美眼

審査本部長 勝田晃拓

審査は絶対基準に相対的要因も絡み瞬時に下されるため、判断誤差が生じることも少なくない。過去の批判や疑問がその証左だ。個性豊かな作品を見出すには審美眼は元より、本会の理念「良いものは良い」とする公平無私な審査姿勢が不可

欠だろう。課題は残るが、現に最終選考を勝ち抜いた作品群が展示会場で審査の公正さを示してくれたことは実に意義深い。今後は技の巧拙にとどまらず心画を見抜けるよう、時間確保や要項見直しを通じ更なる審査の質向上を図りたい。



第42回展を終えて

東京部会長 武富明子

猛暑が年々厳しさを増しています。8月14日午後1時に大勢の人が見守る中で、紅白のテープが切られ、第42回産経国際書展が開幕しました。

初日には高円宮妃久子さまにお成りいただき、高橋照弘理事長をはじめとする受賞者たち

と作品の前でご歓談の後も、時間をかけてご鑑賞賜わりました。会期中は揮毫会・ギャラリートークに加えてフォーラム「今さら聞けない書の疑問」を開催。酷暑にもかかわらず受付担当者が座る暇もないほど、沢山のご来場者に恵まれたことは誠に嬉しい限りです。



関係者の皆様に感謝

搬出入部長 永田龍石

昨年に引き続き搬出入部の仕事をさせて頂きました。仕事の内容は昨年と同じなので安心しておりましたが、いざ始まると1年前の事を結構忘れておりました。実行委員各位、表具店の皆様、事

務局の皆様にお聞きしながらの仕事となりましたが、無事に務めることができました。関係者の皆様に感謝申し上げます。素晴らしい展示会となりましたことは、喜ばしい限りです。来年も頑張りたいと思います。



素晴らしい展示会場

陳列部長 山本晴城

お盆の真っただ中、今年も陳列に力を注ぎました。素晴らしい展示会場とは何かを常に考え、試行錯誤の連続でした。何度も展示作品を動かしてもらっては、他の先生たちと納得いくまで話し

合いました。来場者の方におかれましては、展示会場を特別な空間として楽しんでいただければと願っております。ご尽力いただいた先生方、表具店の皆様には感謝申し上げます。



図録作りを終えて

図録部副部長 岩村恵雲

本年度の図録部は、大阪・関西万博展を終え、ベテラン部員10名の体制で臨みました。釈文会議で出品票を点検し、初校・二校・三校を経て校了とし、印刷に入りました。誤りなきを第一にしつつ、見やすい図録を目指し、部員一同が心を合わせて作業を進めました。淡墨作品ではにじみや軌線

が鮮明に伝わるように、多字数の作品では一部を拡大するなど、印刷会社にも難しい対応をお願いしました。それでも会期中に「写真の天地が逆さま」とのご指摘を受け、身の縮む思いをいたしました。改めて「校正畏るべし」を痛感し、今後は一層心して取り組みたいと思います。

第42回 産経国際書展 贈賞式・祝賀会



大勢の出品者が栄えある賞を受賞した



高宮宮妃久子さまのお言葉



祝賀会での乾杯

第42回産経国際書展の贈賞式が8月19日(火)、東京都港区の明治記念館で、高宮宮妃久子さまをお迎えし開催されました。式は公募、会友を対象とした第1部と、無鑑査会員、審査会員を対象とした第2部で構成され、全

国からお越しになった大勢の受賞者が表彰されました。その後、祝賀会が行われ、久子さまもご臨席されました。参加者は久しぶりに顔を合わせる方も多く、旧交を温めました。

高円宮賞

高橋照弘 理事長

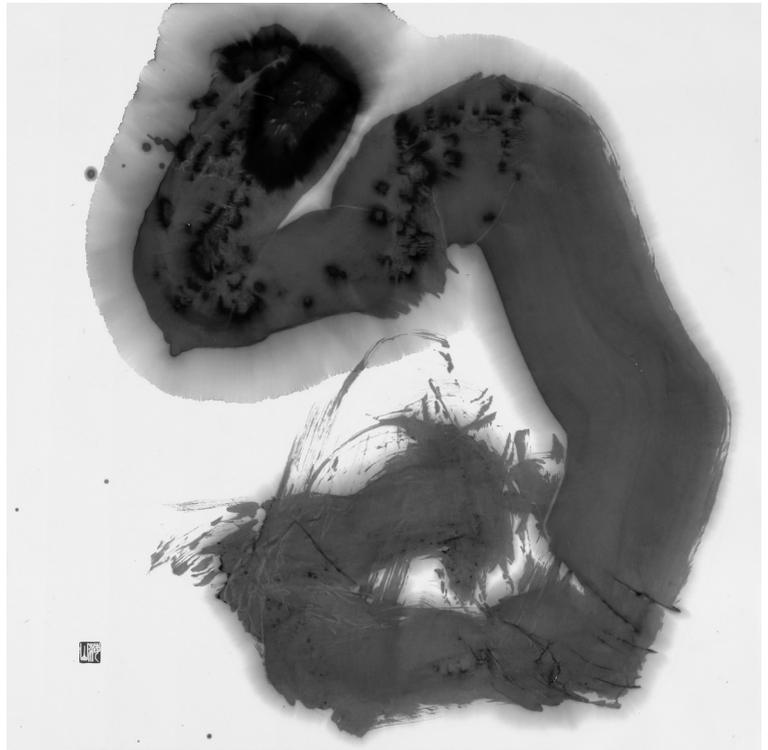
高円宮賞を受賞して

この度は第42回産経国際書展において「高円宮賞」を受賞し、その栄に浴することができました事、誠に有難く幸せに思っております。これもひとえに産経新聞社、書会、会員の皆様のお陰と心より感謝御礼申し上げます。

受賞作は「自」。

草書、淡墨を使用、自は自己の自、時間と場所の起点を示す助字です。書と邂逅してより此の方、自分の書の実はいったいどのようなものであるのかと自らに問い惟みることがありました。

画家は自画像を描く。書家が自画像を書くことがあっても然るべきかなと発想いたしました。書を習い始めてから現在までの道を一筋の線に託することはできないか。書は畢竟するに書線であるという。これを実施せしめるためには草書で



〈自〉

しかできないと確信しました。

ここが制作の根っことなっています。制作するにあたりあれこれと試行錯誤の末、すべてを捨て去り無作為に徹せねば完成をみることはできないと覚え、心の赴くままに筆は随う。結果、無作為の作為となり意に反するものとなったことは恥じ入るばかりです。まだまだ未熟であることを大いに自覚した次第です。

この受賞を糧として今後いっそう精励し、書会のために今以上汗を流して参ります。

ありがとうございました。



喜びの言葉を述べる高橋照弘さん

内閣総理大臣賞 小川艸岑 常務理事

行雲流水のように



内閣総理大臣賞を受ける小川艸岑さん



この度は栄えある賞を賜り、誠にありがとうございました。これもひとえに産経国際書会をはじめ、皆さまのお力添えのおかげと心より感謝申し上げます。

思えば2000（平成12）年の第17回展において、最初の内閣総理大臣賞を父、小川瓦木が受賞しました。それから25年、同じ賞をいただけるとは感慨深い思いがあります。

昨年、瓦木の故郷、千葉県白井市に代表作「雲」の石碑を建立しました。大空へ舞い上がった雲が今回の受賞に導いてくれたような気がします。受賞作は万博のテーマである、いの



〈いのち輝く〉

ち輝く…溢れるような思いを一气呵成に書いたものです。

父、瓦木は私に書を強制することはありませんでした。そのおかげで遅咲きではありましたが、それからは一煌会展、産経国際書展、東洋書人連合での海外展と活動の場を広げてくれました。「行雲流水のように自然体で続けていけばよい」との言葉が、今日まで続けてこられたのかもしれませんが。これからも細く長く精進して参る所存です。

中国大使館文化部賞

正川子葉 副理事長

「人生最終章」～57年の歩みとともに

子供が好き！書くことが好き！から始まった書との出会い。この度、栄えある中国大使館文化部賞をいただき、身に余る光栄と心から感謝致します。

不思議にも昨年、在大阪中華人民共和国総領事館に作品を取める機会が与えられ、また、今年、それにも増してこのような大きな賞を頂戴できたことに際し、責任の重さに只々身の引き締まる思いです。

10年前よりYouTubeなどで配信してきました四字熟語を題材に発表させていただきました。感謝も含め、なお一層の研鑽を積んで努力いたす所存でございます。ありがとうございました。



〈修己治人…〉

韓国文化院長賞

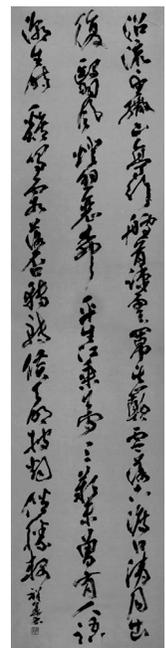
渡邊祥華 常務理事

ただひたすら歩き続けて

退職を機に書に向かう時間が取れるようになり、勉強の幅も自分なりに広がりました。展覧会にも足を運ぶことが多くなりました。その一つ一つが今回の賞をいただく糧になりました。本当にうれしく思います。

心龍会会長の村越龍川先生に出会う機会を与えてくれたのは、児童クラブでの書道でした。村越先生の「己が学ばなくして他の指導はできない」、その一心での勉強ではありましたが、そびえ立つ山と道のりは長く、何度も自分に言い聞かせ、歩き続けました。心龍会の創作研究会は、書友との切磋琢磨の時間です。長く休みなく続けています。

そのご褒美が今回の受賞であると思ひ、心から感謝致します。審査に当たられた先生方に感謝するとともに、後に続く若い書友の励みになれたらうれしいと思います。



〈沿流望嶽山…〉

受賞者 喜びの声 (敬称略)

モンゴル国大使館賞 菅原有恒



栄誉ある賞をいただき感謝しております。産経国際書会への出品は10回になりますが、自詠自書を標榜して出品した功と受け取っております。この賜物は、偶然ながら我が誕生日に贈られたもので、福が重なったことに深く謝恩するものです。ありがとうございます。

ペルー共和国大使館友好賞 大橋玉樹



ペルー共和国は私の憧れの国のひとつです。この度、ペルー共和国大使館友好賞を賜りありがとうございました。また、長い間、温かく育て見守って下さいました書会の諸先生方に心から感謝申し上げます。今後書会の益々の御発展を祈念致しております。

専管理事優秀賞 鈴木暁昇



この度は栄誉ある賞をいただき、師匠である望月暁云先生はじめ、関係者の方々に深く御礼申し上げます。大変嬉しく思いますし、一層の精進をしてまいりたいと存じます。

理事優秀賞 中平博子



思いがけない受賞に驚きと嬉しさでいっぱいです。美しいかな文字を書きたい。それだけの思いで続けてきました。書をしていなければ出会えなかった素晴らしい方々、書仲間、家族にも感謝です。

伊達政宗賞 宮崎礼子



この度は伊達政宗賞を賜り、心より感謝申し上げます。第20回記念展において産経準大賞をいただいてからも、長い年月を重ねることができたことにも感謝しております。

産経国際書会会長賞 石上千嘩



昨年の審査会員優秀賞に続き、2年連続での受賞となりましたが、全くの望外のことただ驚くばかりです。賞の重みを背負いながらの書作活動に今後、なお一層の努力をしていきたいと思えます。

産経国際書会会長賞 河島彩澄



この度は、栄えある賞にご推挙いただき、大変ありがたく存じます。今後も村越龍川先生のご指導の下、気負わず、自然体な作品づくりに努めて参りたいと思えます。

産経国際書会会長賞 小関麗翠



立派な賞をいただき、喜びとともに書に対し、思いを新たにしております。ご指導くださった松崎龍翠先生、書会の諸先生方に感謝申し上げます。これからも精進を重ねてまいります。

産経国際書会理事長賞 栗原昇蘭



身に余る光栄を賜り、誠にありがとうございました。改めて、その賞の重みをひしひしと感じております。ご指導賜りました師・鈴木暁昇先生に、心より感謝申し上げます。

国際大賞 建部紘子



「えっ！」全く思いもよらなかった大きな受賞に、しばし時が止まったようでした。字句のごとく虹色に微笑んだ受賞を励みに、更に精進してまいります。

審査会員優秀賞 新井大鳳



この度は若輩の身ながら栄誉ある賞を頂戴し感動しております。何時も温かく見守って頂いた岩田正直先生をはじめ諸先生方のご指導に感謝申し上げます。今後も更なる精進を重ねて参ります。

審査会員優秀賞 伊勢枝香



今回 思いもかけず身に余る審査会員優秀賞を賜り、驚きで一瞬頭が真っ白になりました。観る人の心を打つ作品を書くように今後も精進致します。

審査会員優秀賞 伊東星昂



審査会員優秀賞をいただき、只々驚き、感激しております。今年は「初心に帰る」を念頭にスタートを切りましたので、さらに努力すべく励ましの賞となりました。ありがとうございました。

審査会員優秀賞 小笠原素心



この度は、審査会員優秀賞を賜り、ありがとうございます。これもひとえに原田圭泉先生、松井玲月先生をはじめ、先生方のお陰と心より御礼申し上げます。受賞を励みに書の奥深さを感じ、作品創作に一層精進して参ります。

審査会員優秀賞 後藤正子



栄えある賞にご推挙賜りまして大変嬉しく存じます。審査の先生方、関係者の皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。自己研鑽を怠らずより良い自分を目指します。

審査会員優秀賞 進藤栄峰



法華経の浄書で賞をいただきましたこと大変嬉しく思います。ご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。これを励みとして、さまざまな部門の書に一層精進してまいりたいと思います。

審査会員優秀賞 中村紅舟



2年連続での審査会員優秀賞、誠にありがとうございました。この度の受賞を励みに今後益々精進して参ります。沢山の学びを与えてくださる諸先生方に感謝申し上げます。

審査会員優秀賞 林帛甫



このたびは誠にありがとうございました。小川瓦木先生・石川天瓦先生にご指導いただき、心より感謝申し上げます。書の難しさを日々感じており、これからも精進してまいります。

審査会員優秀賞 前田恵泉



身に余る賞を頂き誠に光栄に存じます。これも偏に、焯心書道会の先生方のご指導と、家族の理解のお陰と感謝しております。今後も臨書を大切に精進して参ります。

審査会員優秀賞 山口千夏



作品は気負わず書いたもので、賞を頂けるとは思ってもいませんでした。竹澤玉鈴先生のご指導のもと、自分らしく書の道を歩んでまいります。誠にありがとうございました。

文部科学大臣賞 安静圓成



この度大変名誉ある賞を受賞させて頂きまして恐縮至極に存じます。これも偏に師匠の鈴木曉昇先生のご指導の賜物でございます。今後も書に真摯に向き合い精進して参ります。

外務大臣賞 安住美櫻



思ってもいなかった大きな賞をいただき、身に余る光栄とともに、身の引き締まる思いです。この賞に恥じないよう一層努力してまいります。ありがとうございました。

産経大賞 川上青舟



まず昼夜を問わず熱心にご指導くださった岡田崇花先生に感謝申し上げます。今回は最初から作品のイメージに紙墨筆がピタッと揃い、気持ち良く書き進めることができた作品でした。

第42回 産経国際書展受賞者(敬称略)

高円宮賞 現代書部門 高橋 照弘 (千葉県)

内閣総理大臣賞 現代書部門 小川 艸岑 (東京都)

中国大使館文化部賞 漢字部門 正川 子葉 (大阪府)

韓国文化院長賞 漢字部門 渡邊 祥華 (静岡県)

ペルー共和国大使館友好賞 現代書部門 大橋 玉樹 (青森県)

モンゴル国大使館賞 漢字部門 菅原 有恒 (千葉県)

専管理事優秀賞 漢字部門 鈴木 暁昇 (東京都)

理事優秀賞 かな部門 中平 博子 (高知県)

伊達政宗賞 現代書部門 宮崎 礼子 (宮城県)

産経国際書会会長賞
漢字部門 河島 彩澄 (静岡県)
かな部門 小関 麗翠 (千葉県)
現代書部門 石上 千嘩 (宮城県)

国際大賞 現代書部門 建部 紘子 (宮城県)

産経国際書会理事長賞 漢字部門 栗原 昇蘭 (神奈川県)

審査会員優秀賞

漢字部門 新井 大鳳 (埼玉県)
漢字部門 伊東 星昂 (静岡県)
漢字部門 進藤 栄峰 (東京都)
漢字部門 中村 紅舟 (広島県)
漢字部門 前田 恵泉 (東京都)

かな部門 後藤 正子 (北海道)
現代書部門 伊勢 枝香 (宮城県)
現代書部門 小笠原素心 (青森県)
現代書部門 林 帛甫 (東京都)
現代書部門 山口 千夏 (埼玉県)

文部科学大臣賞

〈漢字部門〉 安静 圓成

外務大臣賞

〈現代書部門〉 安住 美櫻

産経大賞

〈かな部門〉 川上 青舟

産経準大賞

〈漢字部門〉 江口 鶴翠
清水 玲飛
毛利 恵華
〈かな部門〉 猪原 忍
〈現代書部門〉 城前 玉香
津川えりか
〈臨書部門〉 鳥居 貴子

無鑑査会員特別奨励賞

〈漢字部門〉 石川 光苑
小俣 紫香
中村 璣峰
羽根田 皋菖
半谷 松華
村瀬 蕙風
野呂 豊香
〈かな部門〉 市川 和子
植田 拳
小田 香倫
小野寿美子
田頭 育子
高松 亮子
〈臨書部門〉 植西 美侑

太田道灌やまぶき賞

〈漢字部門〉 津田 芳華
山地 暁翠
〈かな部門〉 安田 青涛

太宰府天満宮賞

〈かな部門〉 渡邊 彩花

無鑑査会員奨励賞

〈漢字部門〉 鐘築 重治
〈かな部門〉 牧野 友里
〈現代書部門〉 柳田 朋真
〈臨書部門〉 深松 華夢

会友特別賞

〈漢字部門〉	安藤 昇猫	鈴木 翔馬	團 蓮禾	永澤 陽子	湯川 湖霖
〈かな部門〉	鈴木 春陽				
〈現代書部門〉	川端 佳叶	佐藤 良子	手塚 純子	中園 和博	藤井 優子
〈臨書部門〉	山口 曉彩				

会友賞

〈漢字部門〉	石田 弥楓	今村 華綏	小野田 幸儷	鎌田 聡泉	葛谷 綺仙	桜井 峰心
	佐藤 幸美	須永 曉聖	田近 清風	中曾根 緑	八藤 江彩	林 優里
	廣瀬 天翔	深川 秀鳳	深澤 慶川	増田 圭	宮崎 玄煌	
〈かな部門〉	稲岡 輝祥	岩山 淑子	上村 章紀	江場 皋月	太田 春麗	菊島 克月
	菊地 華香	北河 光春	五島 冴津	後藤 蒼葉	小松 恵仙	鈴木 啓心
	瀬谷 秀蘭	津村 芳珠	藤原 彩園	本田 蘭扇	松岡 幸子	湯本 光雪
	芳村 里奈	若宮 舞奏				
〈現代書部門〉	伊藤 律子	木村 恵彰	武安 典代	根岸 鏡華	布田 寿子	堀江 弘昭
	蒔田 桜蘭	松原 謙斗	森田 玲心	横田 礼子		
〈臨書部門〉	白川 史代	山内 秀洸				

会友奨励賞

〈漢字部門〉	加藤 才雅	
〈現代書部門〉	藤本 翠姚	
〈臨書部門〉	小倉 悠歌	村越 深雪

一般公募・特別賞

東京都知事賞

〈漢字部門〉	志波 梧桐
--------	-------

愛知県知事賞

〈漢字部門〉	高田 桃理
--------	-------

中国大使館文化部特別賞

〈漢字部門〉	西口 香龍
--------	-------

産経新聞社賞

〈漢字部門〉	梶原 明美	〈現代書部門〉	井手 崇佳
	鄭 文章		川崎 鶯遊
	豊島 優子		橋本 菽華
〈かな部門〉	岩倉 葉伽	〈臨書部門〉	戸嶋 香子
	村田 侑里恵		

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉	嶺岡 研堂
〈現代書部門〉	柘植 あづみ
〈臨書部門〉	上垣 ひとみ

国際賞

〈現代書部門〉	ゲッチュ・カルビン
---------	-----------

産経国際文化芸術交流賞

〈漢字部門〉	宣 家鑫
--------	------

U23大賞

〈かな部門〉	森本 真維
--------	-------

U23奨励賞

〈漢字部門〉	本間 友衣菜
〈現代書部門〉	三谷 琴音

第42回 産経国際書展 関連イベント

「今さら聞けない書の疑問」フォーラムを生配信

第42回産経国際書展の特別企画「フォーラム『今さら聞けない書の疑問』」が8月20日、東京都美術館講堂で開催され、約150人の書道ファンや初心者らが、書家たちの丁寧なアドバイスに熱心に耳を傾けました。

フォーラムでは漢字、かな、詩文書、前衛書などの各分野で活躍している産経国際書会の書家5人(永田龍石さん、青木錦舟さん、建部恭子さん、町山一祥さん、木村大澤さん)がパネラーとして参加しました。フォーラムの様子はFacebookで生配信され、好評のうちに終了しました。

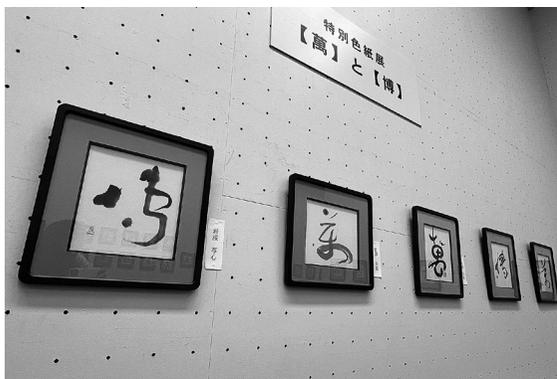


熱気あふれる会場

17日には揮毫会を開催。展示フロアに敷き詰められた大きな紙に、高円宮賞受賞者の高橋照弘さんと内閣総理大臣賞受賞者の小川艸岑さんがご来場のたくさんの皆様の前で揮毫しました。



今年の特別展示



特別色紙展＝様々な「萬」と「博」が揃いました



日本で人気の明・清の書画名品を展示

2025産経ジュニア書道コンクールを振り返って

大きな感動を与える作品がずらり

2025産経ジュニア書道コンクールがオープンした日、高円宮妃久子さまがお成りになりました。皆さんの作品をずっと熱心にご覧になり、「素晴らしい作品ですね」とおっしゃっていました。私の作品が褒められたかのようにうれしかったです。皆さんの作品が大きな感動を与えるんだと実感しました。

力強い美しい線、文字の形も立派でした。私たち審査員は感動しながら作品を拝見させていただき、その中から受賞作が選ばれました。皆さんは一生懸命に書かれたのだと思います。私は皆さんに栄冠を与えたいと思います。

高校生の書道となると、古典を臨書するということが加えられます。芸術としての書道を勉強することになります。書道は線の芸術と言われていきますから、古典を臨書することによって、さらに線質を高め、自分の書道の領域を広げていく。さらにいい作品を作っていくためには、とても必要なことです。

今回受賞された方は、さらに研鑽を重ね、心も書道の技量も高められるようになることを希望しています。皆様の今後の益々のご活躍を祈念しております。



実行委員会審査長
教育部担当副理事長
松崎龍翠



作品の前に談笑する高円宮妃久子さま



「筆でうちわに文字をかこう」イベントで楽しむ参加者



贈賞式の後、席書会で腕前披露



壁面いっぱいに展示された作品

◎特別賞（中学生以下）

A部門 文部科学大臣賞

ジュニア大賞

神奈川県知事賞

千葉県知事賞

東京都知事賞

埼玉県知事賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経国際書会理事長賞

ニッポン放送賞

B部門

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経国際書会理事長賞

ニッポン放送賞

八反田真子(広島・広島市立大塚中学校3年)

渋谷日向里(新潟・新潟大学附属長岡中学校3年)

池上宙奈(神奈川・横浜市立南高等学校附属中学校3年)

板倉可奈(千葉・茂原市立富士見中学校3年)

飯田薫(東京・江戸川区立鹿骨中学校3年)

勝田彩月(埼玉・吉見町立南小学校4年)

内山さゆり(静岡・浜松市立新津中学校2年)

金子葵(埼玉・羽生市立羽生東小学校5年)

高橋恋菜(千葉・栄町立栄中学校3年)

谷口愛奈(福島・いわき市立泉中学校2年)

端菜々美(兵庫・神戸市立西神中学校3年)

平子みのり(福島・いわき市立泉中学校2年)

山崎愛理(栃木・栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校3年)

内山奨梧(静岡・浜松市立新津小学校5年)

秋池琶月(埼玉・入間市立上藤沢中学校2年)

有村沙羅(鹿児島・薩摩川内市立川内北中学校3年)

岩崎琴子(岡山・倉敷市立茶屋町小学校4年)

小畑志織(千葉・松戸市立相模台小学校5年)

甲山心咲(兵庫・小野市立小野南中学校2年)

菅野芽依(栃木・宇都宮市立今泉小学校6年)

田畑心那(熊本・熊本市立真和中学校3年)

西村瑚白(石川・石川県立金沢錦丘中学校3年)

戸田歩実(東京・江戸川区立小岩第二中学校3年)

本多莉乃(静岡・富士宮市立東小学校6年)



文部科学大臣賞の八反田真子さん



ジュニア大賞の渋谷日向里さん



左から各都道府県知事賞の飯田薫さん、池上宙奈さん、板倉可奈さん、勝田彩月さん



◎ジュニア賞（中学生以下）

- A部門** 相羽さやか、青木千紗、赤城桜、足立優花、阿部心咲、石原千遥、稲見咲希、大西麻友、岡本唯愛、荻野愛菜、小野怜弥、笠谷栞里、河井菜々、小泉葵、五條紀実花、小林愛歩、小松凜音、齋藤美空、笹谷郁仁、菅原恋那、鈴木こはく、鈴木麻友、鈴木心結、高橋桃花、田上遥翔、武葵、津志田果子、長岡希奈、永光遥香、中村しおり、難波彩芽、野中美乃里、長谷川菫、長谷川朋丈、畑中美春、花野井愛香、早瀬湊、坂東愛香、引野実結、平野真愛、藤本歩結、星和樹、松木仁美、松嶋小華、松永琴美、宮川花、吉井菜々子、吉本優希
- B部門** 稲見彩乃、猪瀬実希、植竹州哉、大久保世和、片平小春、喜多敦士、久木山心咲、小林那奈、小松崎蓮、椎名美夜、汐中理音菜、鈴木杏菜、田中麗亜、月岡魁星、富澤実乃利、内藤茉奈花、並木楓禾、林下かんな、藤本いろは、松坂しほり、山田梨央、吉松里紗

◎いきいき賞（小学校3年生以下）

- A部門** 阿吉泰夫、飯田将仁、石山絵菜、伊藤冴、伊藤夕陽、伊藤由紀乃、上田朔人、江崎美織、岡村果絵、小川乃愛、小澤柚、小田桐優月、金子りいさ、川内璃々那、川手小春、河野樹、神田花、北里真那迦、黒木結衣、佐藤由莉那、柴崎武尊、鈴木悠斗、鈴木吹優、高橋明咲日、竹ノ内綾珠、田中詩依奈、田中珠莉、手島唯、遠井千晴、富田樹里、長岡れま、中川千紗都、長谷川栞、福富百花、舩谷香穂、牧田茜里、村田惺蘭、森川鈴菜、山崎杏南、湯浅千紗
- B部門** 安部菜々美、有吉悠、石田匠、石鍋梢、内山琉惺、海老澤翼、大坂穂花、大館愛士、岡田結衣子、恩田桃花、勝亦薫子、加藤千鶴、河合千尋、菊池心之介、黒木万智、齋木まどか、櫻井友晴、東海陸功、富田遥斗、成岡香都、新見栞音、長谷川花梨、平石真聖、福世眞子、堀志帆、三澤咲由希、水品沙弥郎、宮本幸平、横山虹慈、横山侑之介

◎特別賞（高校生）

- A部門** 産経新聞社賞 佐野歌（静岡・静岡県立富士宮北高等学校3年）
産経新聞社賞 八田麗奈（愛知・南山高等学校女子部1年）
産経新聞社賞 平子誉人（福島・山崎学園磐城緑陰高等学校3年）
産経新聞社賞 守屋瑠莉（静岡・静岡県立浜松城北工業高等学校2年）
産経新聞社賞 和田すず（長野・長野県長野高等学校3年）
産経国際書会理事長賞 高場美帆（佐賀・早稲田大学系属早稲田佐賀高等学校2年）
- B部門** 産経国際書会理事長賞 安藤凜（埼玉・埼玉県立伊奈学園総合高等学校2年）

◎奨励賞（高校生）

- A部門** 赤川優月、海老澤柚奈、嶋本さくら、新宅彩耶香、関莉果、中村斗翔、福田光伶、堀田麗奈、松尾心音子、真船姫名
- B部門** 阿部琴美、石山優月、宇津木心優、大宮駿士、小野桃花、上村理世、河口安寿、小林瑛夏、櫻井歩那、佐藤彩音、勝賀瀬煌、泉水香都、園田颯翔、田口ゆりの、戸張桃佳、中島有彩、長瀬優花、中村優斗、西井結惟、萩原悠衣、林菜月、林涼介、原美梨花、廣澤桃子、藤本優那、星本京香、堀込紗愛

◎国際部

- 国際友好賞 蔡昀宸（台湾・中興大学附属台中高級農業學校3年）
国際奨励賞 郭安妮（台湾・中興大学附属台中高級農業學校2年）
国際ジュニア賞 貞国泰志（アラブ首長国連邦・ドバイ日本人学校中学1年）
国際努力賞 郝奕斐（中国・上海韓天衡藝術傳承交流中心中学1年）
国際努力賞 河田爽那（タイ国バンコク・バンコク日本人学校中学2年）
国際いきいき賞 秦優愛（神奈川県・東京都大田区立高畑小学校3年）

産経国際書展 大阪・関西万博展

大人から子ども、外国の方々まで多くの人たちと交流

産経国際書会 副理事長 松井玲月

「いのち輝く」、「伝統を未来に」をテーマにこの度の万博に産経国際書展が、ギャラリーEASTで、6月14日から19日まで開催。まず、14日のオープニングは、午後から生憎の雨になりましたが、研修ツアー中の先生方もご参加くださり大変な入場者の中、2時からのセレモニー。書展には珍しい、くす玉割り。めでたく割れて、皆様の拍手と笑顔で楽しい開幕となりました。会場には工夫を凝らした軸装の作品群で百花繚乱、変化に富み、個性の光る作品群で、来場者の好評をいただきました。それは、来場できなかった方も、今回の立派な図録から感じていただけたと思います。また、出品された163名の先生方におかれましても、巻頭に高橋理事長がいみじくも「二度とない千載一偶の機会」と綴られていました通り、素晴らしい記念になったと思います。

そして、展示だけでは淋しいので、何かイベントをと、制限の多い中、「うちわに書きましょ」のワークショップを企画。6日間を関西各社中の取り組みで進行しましたところ、日を追うごとに参加者が増え、用意した300本がきれいになくなりました。大人の方から子どもさん、外国の方々も書文化の体験に熱心に取り組みられ、指導された先生方も子ども、楽しく交流、喜んでいただけたのは何よりの収穫で、今後に期待が膨らみました。

最終入場者が、1万人を超え、さすが万博と驚くとともに大阪ということでこのようなビッグイベントに携われました事、そして関西展実行委員会の先生方、ご社中の一致団結ご尽力のお陰で、無事に終わられて、安堵、感謝を申しあげて報告とさせていただきます。



話題の大屋根リング



ズラリ華やかな軸装作品が並ぶ



書いてみませんか！



若いお母さんもゆっくり鑑賞



オープニングのくす玉割り。左から飯塚浩彦産経新聞社相談役、鈴木裕一常務取締役、高橋照弘理事長、松井玲月副理事長、今口鷲外名誉顧問、手島泰六名誉顧問、原田圭泉名誉顧問、風岡五城名誉理事長

世界へ書道を、産経国際書会をアピール

産経国際書会 会長代行 伊藤富博

6月14日、大阪・関西万博のギャラリーEASTに、お祝いのくす玉が華やかに開き、「産経国際書展 大阪・関西万博展」が始まりました。人気のパビリオンには長蛇の列が出来るなか、いったいどれくらいの人たちが書展を見に来るのか開催が近づくにつれ、不安が募ってきます。しかも、ギャラリーEASTは東ゲートから7～8分ですが人気の日本館やシャインハットの奥に隠れて、目立たない場所にあるのも不安材料でした。

しかし開幕すると、そういった不安はあっという間に消えました。連日2000人に近い入場者、19日までの会期中で1万人を超える多くの皆様に来場いただきました。期間中、関西の先生方

に協力していただいた特別企画「うちわに文字を書こう」も好評でした。講師役の先生方も休憩をとれないくらい、ファミリーや外国人、久しぶりに筆を執った方など続々と参加され、筆と墨の使い方をじゅうぶんに楽しんでいただきました。特に来場者のほとんどが書道未経験の方が多く、そういう意味で言うところの書道への関心や認知度アップ、そして産経国際書会のアピールも出来たと思います。

最後になりますが、関西の先生方の結束の力強さとご協力いただいた多くの皆様に改めて感謝申し上げます。まもなく万博も閉幕しますが、大阪・夢洲に産経国際書会の足跡を残すことができ本当に良かったと実感しています。

古きを温ねて新しきを知る貴重な体験

研修部長 永田龍石

今年は大阪・夢洲の大阪・関西万博の会場内で開催された「産経国際書展 大阪・関西万博展」に足を運び、オープニングセレモニーに参加しました。

まずツアー参加者一行は東京駅新幹線改札口前に集合。添乗員と書会事務局の方に誘導され、新幹線ホームに移動。昼食の弁当とお茶をいただき、車両に乗り込む。車両内はほぼ満席。「皆、万博か？」。

新大阪に到着すると大粒の雨が降ったり止んだり。駅にて傘を購入し、用意されていた大型バスに乗り込んで、一路夢洲を目指す。やがて遠くに大きな木造の建設物が見えて来たが、バスはどんどんとその建造物から離れ、駐車場に到着しバスから降りると、遙か彼方に万国旗。土砂降りの中、万国旗の有る入場口に向かう事30分程。事前にスマホに落としたチケットにて無事入場できました。

予定では展示会場まで、まとも20分ほど歩く予定でしたが、添乗員の配慮でシャトルバスに乗り移動。停留所で降りると目の前に会場が目見えしました。万博会場を象徴する「大屋根リング」は雨宿りの屋根になっていて、来場者が沢山いました。関西在住の先生方、期間中の会場運営をありがとうございました。無事、オープニングセレモニーのくす玉も見事に開きま

した。

翌日は奈良県に移動して、墨屋の老舗「錦光園」(奈良市三条町)で墨作りの工程などを勉強させていただき、その場にて参加者全員が握り墨の制作をしました。

そこで初めて知った事ですが、松煙墨の原料は松の木とっていたのが、正しくは赤松だと知りました。

この後、皆さんとこの世でたった1つの手造り墨を土産に、興福寺に移動し、奈良・天平時代の国宝「阿修羅像」を拝見しました。午後には、世界最古の木造建築である「五重の塔」がある法隆寺(奈良市斑鳩町)にて、見事な建築物や仏像を見学して和歌山県、和歌の浦温泉へ向かいました。

夕食の後、参加者全員でカラオケ大会が始まりました。金丸鬼山先生が審査員で各人の歌を評価。とても楽しい時を過ごしました。ここ数年の研修会は非常に真面目な座学、実技でしたが、普段持つ筆をマイクに変えてのひと時も良い研修でした。

最終日は三重県の鈴鹿に向かい、1994年4月に開館した全国でも珍しい中国書画専門の美術館「澄懷堂美術館」(四日市市)で明清の著名作家の作品を拝見し、見聞を広めました。



墨作りの工程などを勉強する参加者たち
＝「錦光園」(奈良市三条町)



中国書画専門の美術館「澄懷堂美術館」
(三重県四日市市)

書展 トピックス

第50回記念鍾雲書道展

大澤芳洲

●会期 5月24日(土)～25日(日) ●会場 埼玉県・寄居町中央公民館

「鍾雲書道会」が年1回開催してきた社中展の「鍾雲書道展」が今年で50回目の節目を迎えました。会員たちは「後世に何を残せるかを意識し、書作に取り組んできました。また、少子化を踏まえ、未来を担う子供たちに書道の魅力をいかに伝えるかが大事だと認識しています。会員それぞれが伸び伸びと自由な作風で、今後も作品を発表していければと考えております。



第50回梓書道会展

市原蘇水

●会期 6月28日(土)～29日(日) ●会場 東京都・タワーホール船堀

私が主宰する「梓書道会」の社中展「梓書道会展」は今年で半世紀を迎えることができました。幼年から大人まで幅広い年代の出品者たちが日頃の修行の成果を確かめようと、古典や現代書など多彩な作品を披露し、会場は活気に満ち溢れています。私は今回「濃」の字を書きました。今後も書の修行を続け、一層濃い時間を過ごそうとの思いを込めました。

「音羽会書アート展 vol.13」

諸留大穹

●会期 8月31日(日)～9月2日(火) ●会場 アカデミー文京

力強く生き様を主張する作品、願いを込め内面を語る作品、修練を追い巻子本にした作品等、皆輝いています。「音を書く」をテーマにした詩文も第一段階を発表出来ました。吉村妃鞠さんのヴァイオリンの音を線で表したことも手応え充分でした。これは第二段階へと続きます。また、ご縁繋がりの方々に賛助出品頂きましたことにお礼を申し上げます。第13回展も大勢の方に見て頂き心よりの感謝を…有難うございました。



アラカルト

藤村満恵さんの「命」、病院へ寄贈

産経国際書会評議員で前衛書道家、藤村満恵さん(広島県)が現代美術作品「命」を県立病院機構に寄贈し、県立二葉の里病院(広島市東区)の2階ラウンジに展示されました。「命」は縦1.8メートル、横3.6メートル。赤のビニール製パネルに白のペンキで、母親のおなかで育つ子どもの姿を表現しています。藤村さんは「皆さんの心の癒やしになり、愛される作品になればと願っています」と話しています。



鎌田悠紀子さん、ブラジルで書展開催

日本とブラジルが外交関係を樹立し130周年を迎えたことを記念した「鎌田悠紀子書展」(在伯日本国大使館など共催、産経新聞社など後援)が6月26日から7月1日まで、首都ブラジリアのレナート・ルッソ文化スペースで開催されました。「とても日本的でカラフルな『雅』を強調。落ち着いた雰囲気が好感を持たれ4日間で100名の来館者がありました」と鎌田さん。日本語学校にも足を運び、ワークショップで講師を務めるなど、充実した訪問となりました。



「新松戸まつり」で 元気な書道パフォーマンス披露

「新松戸まつり」が7月19、20の両日、千葉県松戸市で開催され、日本書蒼院(岡田崇花支部長)で書道を習っている小中学生28人が書道パフォーマンスを披露しました。歌って、踊り、書き、描き…と元気な姿で大勢の観客を圧倒。大きな拍手が送られました。岡田支部長は「まだ習い始めて間もない子供たちもいます。皆さんの拍手に大きな自信を得たと思います」と話しています。



大阪・関西万博展の公式図録、産経iDで販売

大阪市此花区夢洲で開催中の「大阪・関西万博」で、6月に開かれた特別展「産経国際書展 大阪・関西万博展」の公式図録「墨いろの軌跡」を産経iDで販売しています。産経国際書会の書家163人の全出品作をカラーで紹介。筆使いや息使いを体感できます。また、初心者でも親しめるように鑑賞の手引きを手厚くしました。各書体、墨、硯、紙などのうん蓄を学べるコラムも挿入。巻末にはそれらの英訳も掲載しています。代金は図録・単体2200円(税込み)で、送料・配送手数料は2冊まで全国一律1000円(同)です。



10月25日に「高円寺フェス」で 書道パフォーマンス

「第19回高円寺フェス2025」で誠心社による書道パフォーマンス「書・墨・アート・デモンストレーションVol.2」が行われます。10月25日(土)午後3時から「座・高円寺」劇場前広場で開催、現代書・大作を渡邊麗、渡邊麻衣子、Sutejo Herbert、鈴木荘子、中園和博ら8人の書家が書きあげます。ピアノや管弦楽の楽しい演奏も。観覧無料。



昨年の書道パフォーマンス

第42回 産経国際書展“新春展”募集要項

開催・出品要項(概要) ※搬入締切:令和7年11月14日(金)

【名称】第42回産経国際書展“新春展” **【主催】**産経国際書会 産経新聞社
【会期】令和8年1月21日(水)～2月2日(月)
【会場】国立新美術館 〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2 TEL03-6812-9900 FAX03-3405-2531
【入場料】500円 (身体障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および学生は無料)

《新春展Ⅰ》【寸法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。 **【出品料】**①5万円＝産経国際書会の役員(最高顧問、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、参与、名譽理事長、理事長、理事長代行、副理事長、常務理事、専管理事、理事、監事、評議員)
 全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。 ②3万円＝審査会員、無鑑査会員
 篆刻、刻字、卷子・折帖作品は上記サイズ外。
【特典】作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を1冊進呈(希望者には5冊まで)
【搬入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料を添えて指定表具店へ。

《新春展Ⅱ》公募部門 **【賞】**会友の部:会友奨励賞(賞状、副賞)、公募の部:産経新聞社賞(賞状、副賞)、奨励賞(賞状、副賞)
【出品資格】満18歳以上(産経国際書会会友含む) **【特典】**①作品(半切タテのみ)を軸装にして返却します。(表装料は出品料に含まれています)
【寸法】半切タテヨコ(135cm×35cm)、全紙2分の1(70cm×68cm) ②産経新聞社賞受賞者が令和8年8月に行われる第43回産経国際書展に公募で出品する場合は出品料を無料とします。
 ※搬入は未表装で出品票に必要事項をご記入の上、藤和額装まで。団体の場合は一括出品をお願い致します。出品作品はすべて展示します、但し、規定寸法と異なる場合には展示できない場合がありますのでご注意ください。
【贈賞式】(予定)令和8年1月30日(金)午後4時 明治記念館
【作品送付先】〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12 藤和額装(株) TEL045-833-5273
【出品料】2万円 **【審査】**12月5日(金)
【問い合わせ】〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和7年10月～12月〉

展覧会名	会期	会場	団体・代表名
檀の会書展	10月1日(水)～10月5日(日)	神奈川・おだわら市民交流センター	檀の会・北川佳邑
書・墨・アート Vol.16 渡邊麗・渡邊麻衣子展 一書の旋律 心の響き	10月7日(火)～11月3日(月・祝)	座・高円寺(杉並芸術会館)	誠心社・渡邊麗
第7回【美の会】現代書展・ジュニア書道展	10月9日(木)～10月12日(日)	酒田市美術館市民ギャラリー	美の会・渡部美恵子
第31回蘭契展	10月14日(火)～10月19日(日)	銀座 鳩居堂3階	龍映書道会・林龍成
第40回日本総合書作院展	10月16日(木)～10月19日(日)	大阪・堺市立文化館	日本総合書作院・篠原秀朋
2025「巴歳の会」書展	10月17日(金)～10月19日(日)	セントラルミュージアム銀座	「巴歳の会」実行委員会・五月女紫映
第23回五月女紫映社中展	10月19日(日)～10月23日(木)	東京交通会館シルバサロンA	書道五月女紫映・五月女紫映
第38回研友社展	10月20日(月)～10月25日(土)	日本橋 小津ギャラリー	書法研究 研友社・金丸鬼山
第50回煌心同人書展	10月23日(木)～10月26日(日)	銀座 かねまつホール	煌心書道会・松崎龍翠
第9回海遊舎書展	10月23日(木)～10月27日(月)	埼玉・埼玉会館	海遊舎・山下海堂
第57回一煌会書展	10月24日(金)～10月26日(日)	マロニエ通り銀座館ギャラリー	一煌会・小川州岑
第49回布穀会展	10月28日(火)～11月2日(日)	京橋 ギャラリーくぼた	布穀会・牛嶋紅楓
第53回土筆会書道展	10月29日(水)～11月3日(月・祝)	広島・ふくやま美術館ホール	書道研究 土筆会・上村陽香
groupf 2025展 vol.8 大阪～新たな可能性を求めて～	10月30日(木)～11月1日(土)	大阪市北区・PLAS GALLERY	groupf・井上空咲
第30回秋桜会書展	10月30日(木)～11月2日(日)	銀座 大黒屋ギャラリー	秋桜会・鎌田悠紀子
第11回方琥書院書画展	10月30日(木)～11月4日(火)	大阪・茨木市立ギャラリー	日本書道学社・久田方琥
写真と書の出遣い「LOVE & PEACE」with ブルーインパルス	10月31日(金)～11月2日(日)	マロニエ通り銀座館ギャラリー	原田貴世
第71回あしで會選抜書作展	10月31日(金)～11月2日(日)	大阪・尼崎市総合文化センター	あしで會・今口鷺外
第35回記念 書心会書展	11月7日(金)～11月9日(日)	埼玉・所沢市民文化センター ミューズ	書心会・加藤深流
第38回瑤樹会書展	11月14日(金)～11月16日(日)	マルイファミリー志木8階	瑤樹会・岡村公裕
第42回硯田社書展	11月18日(日)～11月23日(日・祝)	高知市文化プラザかるぼーと	硯田社・橘黄華
第44回東西書展	11月19日(水)～11月23日(日・祝)	日本橋 好文画廊	東西書芸会・鈴木曉昇
全国公募 第50回記念 日輝展	11月19日(水)～11月24日(月・振休)	東京都美術館	日輝会美術協会・阿相三郎
第49回千墨書道展	11月19日(水)～11月24日(月・振休)	品川区民ギャラリー	千墨書道会・近藤豊泉
尚友会2025秋書展	11月20日(木)～11月23日(日・祝)	静岡・しずぎんギャラリー 四季	書道研究 尚友会・小杉修史
第35回遊心書道会展	11月21日(金)～11月23日(日・祝)	広島・県民文化センター 地下展示室	遊心書道会・大庭清峰
第37回日本書藝美術院 学生公募展	11月22日(土)～11月23日(日・祝)	大阪・岸和田市立自泉会館	日本書藝美術院・太田春麗
第21回日本藝術文化環境書道展	11月22日(土)～11月24日(月・振休)	羽田空港第1ターミナル	日本書蒼院・谷蒼涯
第20回埼玉県書作家連盟展	12月5日(金)～12月7日(日)	さわやかちば県民プラザ	日本書蒼院・谷蒼涯
第20回埼玉県書作家連盟展	11月28日(金)～11月30日(日)	埼玉・所沢市民文化センター ミューズ	埼玉県書作家協会・谷蒼涯
第42回記念CMO展・近畿席書大会	11月29日(土)～11月30日(日)	大阪・藤井寺市立市民総合会館	書融会・正川子葉
心芸墨美作家協会 2025選抜展	12月10日(水)～12月14日(日)	銀座 セントラルミュージアム	心芸墨美作家協会・岩浅写心

追悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常任顧問 青陽 如雲(令和7年8月) 無鑑査 橋本 尚玉(令和6年11月)

編集後記

今期より会報・広報部の担当副理事長に就任いたしました永田龍石です。何卒よろしく
お願い致します。

前任の高頭子翠先生が常任顧問に昇進し退任され、小生が大役を拝命したわけでありま
す。ただ、私はここ何十年と文章の執筆や構成など編集に携わることがなく、思えば卒業
論文の執筆に明け暮れた大学時代以来であります。身の引き締まる思いです。

会報誌は歴代の先生方の御苦勞の賜物で、これまで立派な会報が年3回、会員の皆様に
配布されてきました。今後も尚一層、皆様のご意見を聴きながら、読んで楽しい会報作り
を心がけてまいりたいと思っております。

何卒ご指導のほどよろしくお願い致しまして、初心のご挨拶とさせていただきます。

(永田龍石)

(会報編集委員／永田龍石、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和7年9月号
〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2
産経新聞社事業本部内
産経国際書会事務局
TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974
email : shokai@sankei.co.jp
<https://sankei-shokai.jp/>
<https://www.facebook.com/sankeishokai>



産経国際書会
ホームページ

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等
の変更があった場合には事務局
までご連絡くださいますよう、また、
各会書展のお知らせは早めにお
願い致します。